

平成 27 年 5 月 27 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23401038

研究課題名(和文) 日本企業のグローバル化と若者の海外就職

研究課題名(英文) Globalizing Japanese business and young Japanese workers abroad

研究代表者

神谷 浩夫 (KAMIYA, HIROO)

金沢大学・人間科学系・教授

研究者番号：40192546

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,300,000円

研究成果の概要(和文)：日本人の若者が海外で働く理由を解明するために、上海・バンコク・デュッセルドルフにおいて調査を実施した。若者を海外就職へと駆り立てた要因としては、1)国内労働市場の悪化によって若者の就労環境が厳しくなったこと、2)人材紹介ビジネスの発展によって海外での求職が容易となったこと、3)海外の日本企業経営の現地化が進んでいないため日本的経営スタイルが色濃く残っていること、4)日本的経営スタイルのうち就労に関しては海外就職の方が年齢や性差による分断が小さいため、日本人女性は働き方として日本での就職よりもより魅力的と感じている、といった点が明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：In order to examine the reason why young Japanese prefer to work abroad, field survey was conducted in Shanghai, Bangkok and Dusseldorf. The findings are summarized as follows:
1)Deteriorated economic conditions placed younger Japanese in worse working environment, 2)Development of personnel placement service made young people easy to find jobs in overseas countries, 3)Japanese MNCs are less localized, and have strong labor demand for Japanese speaking workers, 4)As for the human resource management, Japanese MNCs in overseas countries have less discriminative hiring policy with respect to gender and age, Japanese women feel more welcomed when working abroad.

研究分野：人文地理学

キーワード：海外就職 グローバル化 日本企業 現地採用 日本人の若者

1. 研究開始当初の背景

研究代表者である神谷は、分担者である中澤とともに一連の共同研究を手がけ、女性のライフコースに注目しながら大都市圏と地方における進学・就職の意思決定のメカニズムを分析してきた(由井ほか,2004)。この一連の研究では焦点は女性のライフコースに焦点を置きながら、職業の選択に際して女性は男性よりも仕事以外の生活も重視していることを明らかにしてきた。若年層の求職行動に関しては稲垣(2004)らの研究蓄積があり、若年層では次第に雇用の流動性が高まり、インターネットを活用した求人・求職活動が流動化傾向に拍車をかけていることが明らかとなっている。

一方日本を本拠地とする多国籍企業のグローバルな展開に関しても、鎌塚(2001, 2002)による研究蓄積がある。2000年代になって日本の景気回復やインドなどのBRICs 諸国への新たな事業展開などもあり、日本企業は展開する地域や属する産業に応じて、現地地の「日本人」に求める要件をフレキシブルに変化させている可能性が高い。本研究では、こうしたダイナミックな動きを踏まえながら、日本企業の国境を越えた展開と、海外日系企業の集積地での日本人に対する「需要」の特性およびその地域による需要の差異を明らかにしたい。

人口地理学では、国際人口移動に関する研究が近年大きな注目を集めている。これまでその多くは、途上国から先進国への出稼ぎに代表されるように、就業機会を求めて所得の低い国々から所得の高い国々への人口移動に焦点を当ててきた。けれども近年では、Highly skilled labor と称される高学歴者の移動が大きな研究課題となりつつある。こうした人口移動は、途上国から先進国という流れだけでなく、先進国から途上国へという移動パターンも少なからず存在する。さらに、高学歴者・高所得者は移動に際して移動先の国の文化的な要素を重視した意思決定を行うとの指摘もある。中川は、ドイツやタイでの人口移動を調査する際に、ドイツにおける日本人の若者やタイ人の女性の存在に関心を広げるようになり、人口移動研究というコンテキストの中に海外就職をどのように位置付けるべきかに大きな関心を抱くようになった。

2. 研究の目的

1990年代初頭のバブル崩壊以降、国内労働市場は二極化が進展する一方、これまで以上に流動化が進んだ。それと同時に、海外で働くことが大きなブームとなった。こうしたブームを支えたのは、現地採用で雇用される未婚の女性であった。この現象は、いわゆる「ヒト」のグローバル化と表現されてきた。けれども、「海外で働くこと」の内実に関するわれわれの理解はまだまだ不十分である。というのも、従来の研究では、海外で働く人口

の増加はグローバル化の進展度合いを示す一指標に過ぎなかったからである。つまり、多国籍企業の行動がグローバル化の原動力と理解されてきたため、企業内での人事異動との関連に着目しながら、日本から数年の間だけ海外に派遣される男性駐在員従業員の国際移動を扱った研究が多かった。けれども、海外で現地採用として就職する若者の数は近年急速に増大しており、しかも現地採用として海外で就職する日本人は女性だけでなく男性にも広がりつつある。そこで本研究では、従来の研究から抜け落ちていた現地採用の海外就職者を対象として、海外で働くことの経験を個人のライフヒストリーの中に位置づけて理解するとともに、海外で働くという若い日本人の経験を可能にしている社会・経済的構造を解明する。

3. 研究の方法

若者の海外就職を調査するために、労働需要側と労働供給側のそれぞれから調査を行う。

[労働供給側に関する調査]

労働供給側からのアプローチとしては、就職の際に居住地を移動する場合、従来は新しい居住地においてより高い、あるいはより確実な収入が見込まれることが移動の前提と考えられてきた。しかしながら、今日では、一見その逆方向に見える海外(どちらかと言えば日本よりも高収入の見込めない国)への若者の就職が顕在化している。これは日本での就職がうまくいかなかったことが理由かもしれないが、それだけではなく、日本で働く場合の、企業名などによって常に序列のなかに位置付けられることから抜け出すことなども意識されていると考えられる。これは「国際結婚」などとも共通するのではないだろうか。国境を越えた移動が容易になったことにより、海外就職や国際結婚によって従来国内での関係性を「ちゃら」にすることが可能になったことが、移動者側からみた、海外就職増加の理由ではないか、という仮説を検証したい。

[労働需要側に関する調査]

海外に進出している日本企業が現地採用の従業員を求める要因を明らかにするために、3つの方法から調査を実施する。(1)都市・地域スケールから見た日系企業の展開状況の把握であり、産業別および地域別にみた世界各地に立地する日系企業の分布状況と集積規模を、既往の統計・企業名鑑などから分析する。(2)中国(上海)、タイ(バンコク)、ドイツ(デュッセルドルフ)において、邦字新聞や日本語のウェブサイトを使った求人情報の分析と、人材紹介会社・人材派遣会社への聞き取り調査を実施することで、日系企業の求人活動の特徴と現地採用日本人の位

置づけを明らかにする。(3)(上海), バンコク, デュッセルドルフに立地する日系企業の支店長や人事担当者に聞き取り調査を実施し, 個別に企業ごとに現地法人の従業員の採用方針(駐在員と現地採用日本人, 現地従業員)を明らかにする。

4. 研究成果

日本人の若者が現地採用として海外で働く理由は, 性別・学歴・社会階層による職業生活の階層化のくびきから解放されることを目的としているという仮説を検証するため, 上海・バンコク・デュッセルドルフにおいて, 各都市で 50~80 人に対してインタビュー調査を実施した。結果の概要は, 2014 年 11 月に広島大学で開催された人文地理学会・地理科学学会合同開催のシンポジウムで報告した。結果を要約すれば, 若者を海外就職へと駆り立てた要因としては, 1)国内労働市場の需給関係が悪化して若者の就労環境が悪化したこと, 2)人材紹介ビジネスが発展して海外での求職が容易となったこと, 3)日本企業の海外進出は欧米企業と比べて年数が浅いため経営の現地化が進んでおらず, 海外現地法人には日本的経営スタイルが色濃く残っていること, 4)日本的経営スタイルのうち就労に関しては海外就職の方が年齢や性差による分断が小さいため, 日本人女性は働き方として日本での就職よりも魅力的と感じている, といった点が明らかとなった。もちろん, 海外就職の就労環境は都市によってかなり異なっているが, それでもアジアと欧米という対立軸は明瞭に認められた。なお研究成果は, 雑誌「地理科学」の特集号としてシンポジウムでのコメントとともに本年度発行の 2 号に 6 本の論文が掲載される予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者, 研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 8 件)

劉曉陽・阿部康久 中国における校弁企業の発展と背景に関する考察, 都市科学, 10, 2015, 103-115 (査読有)

阿部康久・金梅紅 日系電気・電子部品メーカーにみる製品特性の差異と現地化, 地理学評論, 87, 2014, 248-266 (査読有)

中澤高志 経済地理学における生態学的認識と 2 つの「埋め込み」, 経済地理学年報, 59, 2013, 466-488 (査読有)

土屋純・神谷浩夫・金科哲 ホーチミンで働く日本人女性の就業状況と生活環境, 都市地理学, 7, 2012, 16-28 (査読有)

中澤高志・由井義通, 神谷浩夫 日本人女性の現地採用労働市場の拡大とその背景 2000 年代半ばのシンガポールの事例, 地理科学, 67, 2012, 153-171 (査読有)

宮内久光・由井義通 沖縄県内のコールセンターで働く女性の就業状況と就業支援, 沖縄地理, 12, 2012, 45-56 (査読無)

阿部康久 中国大連市に進出した日本語コールセンターの存続状況, 地理科学, 67, 2012, 51-69

Liu, Y., Tan, Y. and Nakazawa, T. Move globally, live locally: The daily lives of Japanese expatriates in Guangzhou, China., Geographical Review of Japan Ser. B, 84, 2011, 1-15 (査読有)

[学会発表](計 25 件)

中澤高志 日本のビジネス・エコシステムのグローバル化と若者の海外就職・起業, 地理科学学会秋季大会, 広島大学(広島県, 東広島市), 2014

神谷浩夫 海外就職にみられるジェンダー差と地域差, 地理科学学会秋季大会, 広島大学(広島県, 東広島市), 2014

阿部康久 「上海ドリーム」とその現実, 地理科学学会秋季大会, 広島大学(広島県, 東広島市), 2014

丹羽孝仁・中川聡史 日本人若者が働くバンコクは「天使の都」か, 地理科学学会秋季大会, 広島大学(広島県, 東広島市), 2014

由井義通 海外求人情報からみたグローバル人材の特徴, 地理科学学会秋季大会, 広島大学(広島県, 東広島市), 2014

鏑塚賢太郎 アジア大都市における日本企業の集積とサービスの担い手, 地理科学学会秋季大会, 広島大学(広島県, 東広島市), 2014

Nakazawa, T. Agent of globalization and creator of life course ASAA 20th Biennial Conference, the University of Western Australia (Perth, Australia), 2014

Yui, Y. Japanese women's working in San Francisco ASAA 20th Biennial Conference, the University of Western Australia (Perth, Australia), 2014

鏑塚賢太郎 バンコクにおける日本企業の集積と事業所サービスに関する予察, 経済地理学会関西支部 2 月例会, 大阪市立大学・文化交流センター(大阪府, 大阪市), 2013

神谷浩夫・阿部康久・中澤高志・由井義通・鏑塚賢太郎・丹羽孝仁・谷人旭 日本企業のグローバル化と若者の海外就職-上海の現地採用者の動向-, 人文地理学会大会一般発表, 大阪市立大学(大阪府, 大阪市), 2013

阿部康久・神谷浩夫・中澤高志・鏑塚賢太郎・由井義通 海外居住歴からみる上海在住現地採用日本人の現地適応状況, 人文地理学会大会一般発表, 大阪市立大学(大阪府, 大阪市), 2013

鏑塚賢太郎・神谷浩夫・由井義通・阿部康久・中澤高志・谷人旭 日本企業の海外展開とサービスの担い手 - なぜ海外就職する日本人なのか -, 人文地理学会大会一般発表, 大阪市立大学(大阪府, 大阪市), 2013

中澤高志・神谷浩夫・由井義通・丹羽孝仁・
鎌塚賢太郎・中川聡史 バンコクで働く日本人と『日本人市場』, 日本地理学会春季学術大会, 国土館大学(東京都, 世田谷区), 2013

由井義通・神谷浩夫・丹羽孝仁・中澤高志・
鎌塚賢太郎・中川聡史 海外就職における人材紹介会社の役割若 - バンコクの事例 -, 日本地理学会春季学術大会, 国土館大学(東京都, 世田谷区), 2013

丹羽孝仁・中川聡史・神谷浩夫・鎌塚賢太郎・
由井義通・中澤高志 タイ, バンコクにおける日本人居住者の特徴, 日本地理学会春季学術大会, 国土館大学(東京都, 世田谷区), 2013

鎌塚賢太郎・神谷浩夫・鎌塚賢太郎・丹羽孝仁・
中川聡史・由井義通・中澤高志 バンコクにおける日本語コールセンターの立地とサービスの担い手, 日本地理学会春季学術大会, 国土館大学(東京都, 世田谷区), 2013

神谷浩夫 バングラデシュで働く日本の若者, 日本地理学会春季学術大会, 首都大学東京(東京都八王子市), 2012

鎌塚賢太郎・神谷浩夫・由井義通・阿部康久・
中澤高志・谷人旭 日本企業の海外展開とサービスの担い手 なぜ海外就職する日本人若者なのか?, 人文地理学会大会一般研究発表, 立命館大学(京都府, 京都市), 2012

Yui, Y. and Miyauchi, H. Feminization of labor force in Japan and changing women's life course. The 32th Congress of the International Geographical Union, Cologne, Germany, 2012

神谷浩夫・阿部康久・中澤高志・由井義通・
鎌塚賢太郎 若者の海外就職とキャリア形成への戦略 - 上海における現地採用日本人を事例として -, 人文地理学会大会一般発表, 立命館大学(京都府, 京都市), 2012

④神谷浩夫・由井義通・中澤高志・阿部康久・
鎌塚賢太郎 若者の海外就職とキャリア形成への戦略 - 上海における現地採用日本人を事例として -, 人文地理学会大会一般発表, 立命館大学(京都府, 京都市), 2012

②Kamiya, H, Yui, Y, Taki, A. and Kubo, T. New work style of Japanese women working abroad, The 13th International Conference of European Association of Japanese Studies, Tallinn University (Tallinn, Estonia), 2011

③阿部康久 旧植民地都市大連への日本企業の進出と将来展望, 名古屋地理学会・人文地理学会歴史地理研究部会合同シンポジウム, 中部大学(愛知県春日井市), 2011

④Nakazawa, T. Spatial trajectories of the life courses of women in postwar Japan. The 13th International Conference of European Association of Japanese Studies, Tallinn University (Tallinn, Estonia), 2011

⑤Yui, Y. and Miyauchi, H. Changing life

course of women and feminization of labor force in Japan: Fragmentary women's works, The 13th International Conference of European Association of Japanese Studies, Tallinn University (Tallinn, Estonia), 2011

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

神谷 浩夫(KAMIYA, Hiroo)
金沢大学・人間科学系・教授
研究者番号: 40192546

(2) 研究分担者

中川 聡史(NAKAGAWA, Satoshi)
神戸大学・経済学研究科・准教授
研究者番号: 10314460
阿部 康久(ABE, Yasuhisa)
九州大学・比較社会文化研究院・准教授
研究者番号: 10362302
鎌塚 賢太郎(KUWATSUKA, Kentaro)
龍谷大学・経営学部・准教授
研究者番号: 40346466
中澤 高志(NAKAZAWA, Takashi)
明治大学・経営学部・専任教授
研究者番号: 70404358
由井 義通(YUI, Yoshimichi)
広島大学・教育学研究科・教授
研究者番号: 80243525

(3) 連携研究者

()

研究者番号：